

Theater TEN Company

シアターテンカンパニー

2001 年旗揚げ。安里在のアトリエ『シアターテン』を拠点に活動。劇団としては、小劇場演劇作品から、音楽劇、子供ミュージカル、高校演劇、琉球舞踊やウチナー芝居など、幅広いジャンルの作劇を行っているが、創作だけではなく企画、制作のプロ集団としても活動している。また、後進育成の俳優教育も積極的に行っている。



田原雅之

Theater TEN Company 代表

訪れた劇場で配られる、たくさんの上演予定のチラシ。カレンダーを見くらべ、どの作品を観ようかと悩ましいほど多くの作品が毎週、さまざまな場所で行なわれています。



3 年に一度異動する役所の担当者、は、たまたま熱意があったとしても、何も知らない興味も無い人に変わり、また一から文化芸術・伝統芸能のことを説明しなければならぬ苦労がある。理解されず、現場の意見と違ったものが作られることも多い。どんなに立派なホールを建てても魅力的な企画、公演がなければ、人は集まらない。巨大空き店舗にならないよう県内の実演家を核とした

平等な運営と、ルールに縛られない自由度の高い施設であれば、魅力的な実演家は訪れてくる。担当者には広くアテナを張り、那覇らしい施設とは何か真剣に考えてもらいたい。



とにかく演者のみなさんから「使いやすい」と言ってもらえる。ここで新しい舞台を創造してもらえれば、ペンキを塗っても穴をあけても、どう使っても良い。最近、若い演者が増えたおかげで、自分の練習場所が無くなって困っている(笑) 新市民会館は、そんな施設であって欲しいと期待する。練習開始は夜 9 時がほとんど。深夜までは当たり前だからね。



福永武史

わが街の小劇場 主宰

1996 年、大学在学中から演劇をはじめ、劇団コヨーテピストルの看板俳優として活躍。郷土沖縄にこだわらず、県外の作品も意欲的に挑戦。わが街の小劇場のアトリエ公演のプロデュース作品を演出し、圧倒的な世界観をつきつける。



西平士郎

スタジオパフォ 主宰

2009 年に創作ミュージカル団体パフォ部を結成。2012 年に 1 年間ニューヨーク留学し、HBstudio で演技、ムーブメント、ヴォーカルを学ぶ。帰国後、沖縄におけるミュージカルの発展をめざし、2013 年にオープンし、2017 年 6 月より電波堂劇場を拠点に県内唯一のミュージカル専門家として活動中。



紀々

哲楽家・電波堂劇場オーナー

旧「studio 紀々」から昨年電波堂劇場へ。建物にも運営側にも無理のない安全・安心にレトロ空間を活用できるカタチを模索中。現在、演劇などの稽古、ピアノの練習、リハーサル、講習会、合唱、ワークショップなどで活用されている。

沖縄の演劇が熱い！ 新文化芸術発信拠点施設について語る

訪れた劇場で配られる、たくさんの上演予定のチラシ。カレンダーを見くらべ、どの作品を観ようかと悩ましいほど多くの作品が毎週、さまざまな場所で行なわれています。



劇艶おとな団

2011 年に旗揚げ。沖縄にこだわった作品創りを心掛け、近年では「九人の迷える沖縄人」、「いっとーばい〜逃げた知事泉守紀〜」などがある。「おとなが夢を見、実現できなくちゃ、子どもと夢を語れない」をキャッチフレーズに、2017 年よりアトリエ銘苅ベースを拠点に活動中。



当山彰一

劇艶おとな団 主宰



多目的ホールは無目的ホールと、公共施設がよく批判される言葉。どんなイベントにも対応できるようにしたもの、専門的な実演には向かないホールということ。何でもダメダメと注意し、使う側の視点軽視した管理・運営では、どんどん活用されなくなる。

那覇市に今後 100 年続く文化芸術のビジョンを描くことができ、そして県内外の実演家に強いパインのある、アーツ・マネジメントができるプロデューサーを迎えることを本気で考えてもらいたい。思い切った大胆な発想で今後の管理・運営を行っていくことに期待する。

劇団 O.Z.E

(オリジン・コーポレーション)

1999 年 1 月真栄平仁(ひーぷー)を頭に当初 3 人で結成。従来の「演劇」のスタイルにこだわらず見に来てくれるお客さんのエネルギーとなる刺激的で生き生きとした演劇に挑戦。近年は高校生部門の「劇団 H2O」や夢を諦めない大人達の「劇団 OOC」も結成。港町を活動拠点とし、テンプスホール、パレット久茂地などで上演。



永田健作

オリジン・コーポレーション所属
俳優兼マネージャー

魅力ある施設は、やはり人だと思ふ。テンプスホールやパレット市民劇場をよく利用しています。表現者に寄り添って、一緒に考え、差別することなくサポートしてくれる。それが良い施設につながると思っています。また、文化芸術に関する補助金について、遅れて情報が伝わることも多い。公的なもの

のから民間の情報を集約した窓口サービス、または実演家向けの SNS やメールで情報を発信する仕組みを考えてもらいたい。補助金を使う、使わないは別として、寄り添った支援は、表現者にとって創造につながる。互いに信頼関係を構築できればと思います。

西平

国際通り周辺には歩いて行ける距離に劇場がいくつもあふれる。パレットやテンプス、タイムス、新報、そして市民会館が完成したら、沖縄のブロードウェイです。そうなる、いろいろなコンテンツを作っていくかなければと思っています。

新市民会館が久茂地のランドマークになって、そこに行けば楽しいことがある、その一つに劇場があり、何かやっているから出かけようって。素敵なカフェなどの店も多い場所なので、一体となつて楽しいエリアになることを期待しています。

紀々

地元の人が心躍る場所として、「久茂地に行く」という街になることを願っています。この地域は老舗のギャラリなど、歩いて楽しみを発見できる場所です。

こちらの空間は 40 年余の歴史があり「街かどに音楽をあふれさせよう」と祖父が残した場所です。古くなり、閉じることも考え、悩みましたが、地域のみなさんのピアノ練習やミュージカルの練習場として必要とされていることに気づきました。ひとまず新市民会館のオープンまで、みなさんの活動を応援し、頑張ろうと思います。

お忙しいなか取材にご協力くださりありがとうございました

秘書広報課

862・9942